

家庭学習応援だより

第7号

昨日より、学校公開期間が始まりました。期間は今週のみになっています。学校行事の時だけでなく、普段のお子様の学習の様子をぜひ参観していただき、家庭での学習のヒントに役立ててもらえればと思います。

さて、今号では家庭学習の落とし穴について考えていきたいと思っています。親が良かれと思ってやっていることが子どもにとって逆効果になることがあったり、少し前までは注目されていた勉強法があまり効果的ではなかったりするなど、日々情報もアップデートされています。それではどんなことがアップデートされているのでしょうか、ご確認ください。



「リビング学習」の落とし穴

リビング学習を取り入れているという家庭は多いのではないのでしょうか。リビング学習は家族構成や住宅事情、お子様の性別や年齢によって向き・不向きはあるものの、特に低・中学年においてはかなりの成果を感じます。ただし、効果的でない場合もあるのも事実です。例えば、家族構成がとても多く、常に何人もの家族がリビングで過ごしている家庭では、子どもが集中して学習に取り組むことは難しいでしょう。では、リビング学習のメリットとデメリットにはどのようなものがあるのでしょうか。ご自身の家庭と比べてみて、リビング学習を導入するかどうか、すでに導入している場合は今後も継続すべきかどうかを検討してみるのもよいでしょう。

【リビング学習のメリット】

○ 子どもの学習状況が分かりやすくなる

個室とは違いリビング学習では学習状況が把握しやすいため、「やっていると見せかけてサボってマンガやゲーム・スマホをしていた」、「答えを丸写ししていた」などという心配が多少減る。

○ 学習時の孤独感が軽減される

高学年以降、中学受験で失敗するケースのひとつに「孤立感」があると言われます。家族が楽しそうに歓談している中、子どもが一人部屋にこもって難しい勉強を始めるも、思うように解けないと、「孤立感」と「無力感」の負のスパイルに陥ることがあるためです。その点、家族がいるリビングでの学習は、孤立感が軽減されます。

【リビング学習のデメリット】

○ 双方向のオンライン学習には向いていない

最近では学習塾でもオンライン化がかなり進んできましたし、大手の通信教材でもオンラインライブを教材と併用するのが主流になりつつあります。リビング学習での唯一の欠点は双方向でのオンライン学習に限界があること。リビングで親御さんもリモートワークをしていたり、子どもが複数いる場合、リビングが騒がしく集中できない、家族がスマホやネットを使っていて回線が遅くなる、ハウリングをしたり会話の音が混じる、などの不都合が生じることがあります。

○ 自立の機会を奪う危険がある

親が学習を管理しすぎると、「中学・高校になっても一人で学習できない」といった学習面での自立の機会を奪う危険性や、親側も「子どもがいないと不安」という共依存になる可能性もあります。特に、リビング学習の成功体験が積み重なっているケースほど、より行動が強化されていくので注意が必要です。「年齢に応じて学習の関わり方を変える必要がある」ということも考えておくことが大切です。

「先取り学習」の危険性



今や中学受験を考えている家庭の入塾時期は、ほんの数年前までは「小学4年生の3学期」などと言われていましたが、現在は「小学3年の3学期」が多いようです。そうなってくると、心配なのがいわゆる「先取り学習」です。

例えば、つるかめ算は中学受験の典型的な問題で、特殊算といわれるものの一つです。中学受験を少しでも有利に進めたいと、先取りして勉強させる親御さんがいますが、つるかめ算のような文章題を小学3年で解かせるのはどうかと思います。小学3年はまだ文章の読解力が十分に育っていない時期です。長めの文章題を解かせようとすると、問題文の内容を理解せずに、出てくる数字をいじって答えを捻り出したり、解法を丸暗記したりするよくない癖がついてしまわないかが心配です。

中学で習う方程式や三平方の定理、高校で学習する数列を教えるなど、先取りさせたがる親御さんがいます。しかし、かえって算数を不得意にさせてしまうことになりかねません。計算の先取りはよいのですが、子どもの発達段階に合わない先取り学習は効果的とは言えません。確かに、方程式や三平方の定理、数列などの知識は、数学を解くうえでの「便利な道具(公式)」です。便利な道具を早くから与えてしまうと、自分で工夫する習慣が身につかなくなります。「算数」には制限された道具(公式)しかないのです、解くのに工夫が必要です。だからこそ、賢くなるのです。中学受験の算数はその最たるものです。少ない道具でどこまで考えられるかを問われます。

また、算数が好きになり、自発的に取り組もうとする原動力(学びに向かう力)は、試行錯誤の末に答えにたどり着いたときの感動だと言えます。「便利な道具(公式)」は、この「学びの感動」をも奪ってしまいます。

とはいえ、中学受験の裾野は公立の中等教育学校や附属中学校の開校により広がりつつあり、中学受験の問題が年々難化しているのも事実です。例えば、ある中学校が新たな問題を出題すると、塾はその対策をするため、テキストで習う範囲も増えてきています。最近では、受験生の親御さんが中学受験経験者という家庭も増えていますが、かつて親世代が学んだ30年前と比べると、求められる知識量は多くなっていると思います。

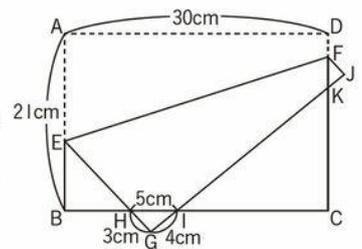
右上図は、25年以上前の開成中学校の問題ですが、これは長方形を折り曲げてできた図形で、相似な直角三角形を見つけることがポイントで、当時は難問と呼ばれていました。

しかし、昨年度の洗足学園で類似問題が出されましたが、今や「解けないと合格できない問題」の扱いです。こうしたことも、「先取り学習」に拍車がかかってしまう要因になっているのかもしれませんが。ちなみに開成中学校は、近年右下図の問題に傾向をシフトさせています。「考える力」をみる方向に出題の仕方が変わってきました。2×7マスの暗号を作るという題材で、独自の条件が設定されています。問題自体は、6年生の「場合の数」でそこまで難しくないので、問われていることを読み解く力が求められています。

図表1 問題(開成中学校1996年)

右の図は $AB = 21\text{cm}$ 、 $AD = 30\text{cm}$ の長方形 $ABCD$ を直線 EF で折り返したものです。図において、 $GH = 3\text{cm}$ 、 $HI = 5\text{cm}$ 、 $IG = 4\text{cm}$ です。

- (1) 図の BE の長さを求めなさい。
- (2) 図の IK の長さを求めなさい。
- (3) 台形 $EGJF$ の面積は台形 $EBCF$ の面積の何倍ですか。分数で答えなさい。



※右上の問題は、比で解けます。ぜひ挑戦してみてください

図表3 問題(開成中学校2022年)

開成君は、図1のような縦2マス、横7マスのマス目を用意し、マス目のいくつかを黒くぬりつぶして「暗号」を作ろうと考えました。そこで、次のようなルールを決め、何種類の暗号を作ることができるかを調べることにしました。

- ・黒くぬりつぶすマス目は、上下左右が隣り合わないようにする。
- ・読むときは、回したり裏返したりしない。

次の問いに答えなさい。

(1) 最大で何か所をぬりつぶすことができますか。その場合、暗号は何種類できますか。

(2) 14個のマス目のなかで5か所だけをぬりつぶす場合を考えます。

	1	2	3	4	5	6	7
A							
B							

おわりに

今号では家庭学習の落とし穴について見てきました。先程も申したように、子育てや家庭教育に関する情報は、日々更新されています。新しい情報に触れたいとお思いの方は、本校の図書室に関連図書を用意しておりますので、この学校公開期間にご利用いただければと思います。